

平成26年度 行政評価の取り組み

行政経営へと変革する

市では、九州大学客員准教授の加留部貴行氏を会長に、公募の委員を含む10人で構成する行政評価委員会を附属機関として設置しています。この委員会では、行政が行っている事務・事業について、市民の皆さんの立場から評価や事業改善などに向けた提案をいただいています。

「評価はあら探しをするものではなく、良いことは良いと言い、悪いことは悪いとはっきり指摘し、改善方法を提案する。民間の視点でメリハリをつけて方向性を示唆したい」という会長の言葉通り、委員の皆さん一人一人が持っているさまざまな知識や経験などを生かして、毎回活発な議論をいただいています。

行政評価とは

福津市総合計画では、行政評価制度の構築を目標としています。「計画(PLAN)→実行(DO)→点検・評価(CHECK)→改善(ACTION)」の行政経営サイクル(PDCAサイクル)を確立し、効果的・効率的で分かりやすい、行政経営体制を確実に築いていくための手段として、行政評価を行っています。

行政評価は、その目的に応じて政策評価、施策評価、事務事業評価などに分類されます。

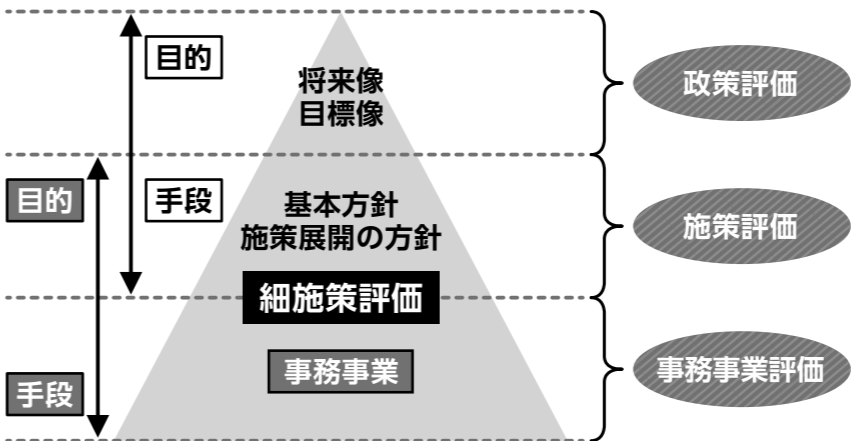
「政策」とは、まちづくりの方針(市総合計画では分野別目標像)です。「施策」とは、まちづくりの方針を実現するための具体的方策(市総合計画では基本方針)です。「事務事業」

は、施策を実現するための事務や事業です。

それぞれの関係は「政策」を実現するための手段が「施策」、「施策」を実現するための手段が「事務事業」です。つまり、「事務事業」の目的が「施策」であり、「施策」の目的が「政策」となります。

市では、事務・事業の改善や効率化を図るために、平成19年度から事務事業評価を行ってきました。

平成24年度からは、関連性が強く、一定の目的のために構成される事務・事業を「細施策」として束ね、細施策評価を行い経営資源(ヒト、モノ、カネ)の再配分を図るきっかけとしています。



▲総合計画の体系

行政評価委員会の活動

平成26年度は、委員会を10回開催し、平成25年度に実施した細施策の中から、多種多様な6つを選定し、外部評価を行いました。また、過去に外部評価を行った事業の中から、その時にいただいたコメントなどをもとに、その後どのように進めているかを確認するために、2事業の再点検評価や、第二次行政改革大綱の進捗点検を行いました。

ここでは、外部評価で委員の皆さんからいただいたコメントの概要を報告します。

子ども条例(仮称)の制定

福津市子ども条例(仮称)検討委員会を含む審議会のあり方についての議論となりました。

審議会への諮問・答申を繰り返したことについて、諮問をする際の審議してもらった内容の整理と具体的な問いかけ方に不備があったのではないかと、最初の進め方から設計がなされていなかったため、非効率になったと言

える。また、長期的な検討の際には、行政内部はもとより前後の審議会間の引き継ぎ方を工夫する必要がある。

人権啓発

人権啓発において重要となるのは、学校である。子どもたちにしっかりと伝えて、考えていく場を作り続ける必要がある。

多様化している人権問題について、人権政策課が積極的にかじ取りをしながら、学校教育、社会教育、男女共同参画などとの連携を強化する必要がある。

地域とともにもっと学校づくり

コミュニティ・スクールを中心とした地域、学校ぐるみのさまざまな取り組みによって、生きる力を身に付けるため、学校内の環境が改善されていることは評価できる。

今後、家庭の教育力や地域の関わり具合をどのように上げていくのかは課題である。

世界遺産の登録活動

「世界遺産登録によって市民生活に何をもたらすのか」ということを、市民に周知する必要がある。世界遺産を目指すことをきっかけとして、市が何を目指しているのかを伝えながら、投資した後の姿を具体的に示す必要がある。

買物支援モデル

高齢者を主たるターゲットとした取り組みの主旨は共感できる。

しかしながら、「買物弱者支援」と合わせて「商工振興」、「高齢者雇用」を事業の目的としているので、本来の目的を中心に、優先順位を整理すべきではないか。対象となる高齢者がどのような状態であるかという視点で考え、収支を見通しながら、モデル事業として、効果を検証する必要がある。

情報の提供

主に広報誌の発行事業と市公式ホームページの運営事業についての議論となりました。

情報量の増加に伴って、情報を提供する対象、その目的、その後の使われ方など、情報の流れを把握し、出す情報にメリハリをつける必要がある。

「市民に知ってもらいたい情報」と「市民が知りたい情報」とのギャップを埋めていくために、情報を提供される側の声を傾聴すべきである。

また、市公式ホームページの見やすさを改善するとともに、紙媒体で発する情報とデジタル(ホームページ)で発する情報との整理をしてはどうか。

福津市行政評価(外部評価)の流れ

① 一次評価(自己評価)

対象:全ての事務・業務

担当職員が自分の仕事を振り返る自己評価。その際には、目的(対象や意図)は何なのか、効率的に進められているか、どういった結果がでているか、何か改善点はないかという視点で評価を行う。

② 外部評価(行政評価委員会)

対象:委員会が選定(平成26年度は6細施策)

市民の視点からの評価を行う。評価の対象は、委員会が選定。基本的には、やり方よりもあり方を議論するという狙いをもって方向性を示唆する。

③ 二次評価(市経営陣による評価)

対象:外部評価の対象となった細施策

外部評価結果を受け、市経営陣により最終評価。一次評価、外部評価の結果をもとに、部署を超えた市の経営陣としての立場で議論をし、対象細施策の今後の課題について検討、対応方針を決定する。



▲行政評価委員会の様子

平成26年度 行政評価委員

- | | |
|--------|-------|
| 加留部 貴行 | 木本 圭子 |
| 上妻 司 | 下田 弘美 |
| 鈴木 亜希子 | 平島 美代 |
| 藤林 正季 | 松井 元興 |
| 森 石根 | 山田 嘉勝 |

(順不同・敬称略)

平成26年度の行政評価委員会の会議内容の詳細、行政評価の取り組みの総括や一次評価、二次評価結果は、市公式ホームページで公開しています。

【問い合わせ】
市行政経営企画課(福岡庁舎)
☎0940・43・8121